

わが市、わが町 座間市

「地下水とひまわりと大風祭り」



本市は、新宿から小田急線で小田原方面に向かって約 50 分、横浜から相鉄線で海老名方面に向かって約 25 分、本県のほぼ中央部に位置しています。広がり東西 5.3km、南北 4km で、面積はキャンプ座間を含めて約 18 平方キロ。東は大和市に、西は相模川を隔てて厚木市に、南は海老名市に、北は相模原市に接しています。

かつては本市も、のんびりとした農村地帯でしたが、昭和 30 年代の高度経済成長により、日産自動車など大手企業が相次いで進出し、住宅・工場の街へと姿を変えてきました。

その後、平成 5 年以降、一部で工場閉鎖や転出が行われたものの、ここ最近では技術研究の集約化などが進みました。

現在の人口は約 13 万人。「みなぎる活力とやすらぎが調和するときめきのまち」を将来像とし、実質的には快適で利便性に富んだ首都圏のベッドタウンとして、また、ハイテク産業の街として着実な歩みを続けています。

現在の土地利用目的別の状況を見ると、宅地が約 8 平方キロで全体の約 45 ㊦を占め、次いで道路・河川・水路が約 3 平方キロで 17 ㊦、さらに農地が 2.3 平方キロで 13 ㊦、森林が 1 平方キロで 6 ㊦、キャンプ座間を含めたその他

が 3.4 平方キロで 19 ㊦となっています。

森林面積が少ないことから、治山林道のハード事業とは縁が薄いわけですが、ここでは、私にとっての「街の自慢」を紹介させていただきます。

最初にご紹介したいのは、夏冷たくて冬温かいおいしい水が身近にあることです。残された緑と起伏に富んだ台地は、潤いとやすらぎを与えてくれるとともに、地下水をたっぷりと蓄えており、私たちはその地下水を水道の主水源としています。ミネラルを適度に含んだやわらかくてまろやかな水道水は、近隣市の方々からも大変うらやましがられています。



市内の湧水

二つ目は、市の花「ひまわり」が、夏には市内 5.5 ㊦の畑に見事に咲き誇ることです。

ひまわりの植栽は、農業者の高齢化や後継者不足の傾向にある中、農地が荒れることを防止するため、市と農協が支援する形で農家の自主的なグループが行っているものです。

市内 4 箇所、約 55 万本のひまわりが太陽に向かって一斉に花開く姿は、市内外から訪れた

多くの方々に元気と希望を与えています。

さらに、子どもたちの健やかな成長を願って5月のお節句に、相模川の河川敷で大凧を揚げる祭りがあることです。



この習わしは、江戸時代文化・文政年間に始まったと伝えられており約 200 年の長い歴史を持つ伝統行事で、凧の大きさは 13 畳四方(畳 100 枚分)で、重さは約 1 トンもあります。

五月の南風に乗って大凧が青空高く舞い揚がる姿は勇壮そのもの。その時には揚げる人見物人の心が一つになります。

このほかにもご紹介したいものがたくさんあります。いずれにしましても、特に地下水は上流の森や林など、地下構造を含めた自然との関わりが大きく影響します。豊かな自然を守るために働く多くの皆さんに感謝するとともに、今後も治山林道協会のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

(環境経済部 農政課 三井博幸)